

原子力規制委員会の YouTube の見どころ

h.m.s は、それぞれの適合性審査会の YouTube の開始からの時間、分、秒を示しています。1回の審査会は、通常2時間ていど、北電からの説明が延々と続き、質疑は最後のところですので、そこだけでも見て、何が問題にされたかをチェックするといいいと思います。4h. などという場合は、泊原発の審査の前に、他の原発の審査が入っている場合です。

1 : H. 25. 8. 14. 第8回 : 基準津波 (1) 1h.18m10s ~ 20m 40s : 津波や地震の規模をきちんと考えようとしない北電の姿勢に対し、島崎委員長による痛烈な批判。

2 : H. 26. 1. 29 : 第74回 基準津波 (4) 3h.29m15s ~ 32m10s : 津波を起こす地震の断層モデル (大きく滑る部分 {アスペリティ}) の位置をどこにおくか、断層の位置の問題

4h.08m ~ 12m30s : 北電による火砕流のシミュレーションに対する島崎委員長の全面否定。

4h.16m50s : 北電が火砕流をごく薄いものとししか考えてない証拠発言

4h.37m07~38m : 一方で、規制委員会は、火砕流は確率がきわめて少ない現象なので、たとえ敷地まで来ていたとしても容認するという発言。

3. H 26. 9. 12 : 第138回 地質・地殻変動 2h.6m50s ~ 11m : 積丹半島の地震性隆起を否定、あくまで広域隆起だと主張する北電側とのやりとり。8月の現地調査をふまえた島崎委員長の最後の審査会。最後まで議論は「平行線」であり、規制委員会は、北電の主張に否定的であることがわかる。

4. H 27. 5. 29 : 第232回 地質・地殻変動のまとめ

4h.24m45s ~ 27m : 岩内平野、岩内層の問題

31m~33m : 北電の考えている“地形発達史”の説明

39m50s~42m40 : 石渡委員長による強引なまとめ、幕引き。これだけ多くの、かつ重要な問題がなお提起されているのに、ほぼ結論は出たとして、地質・地殻変動に関する議論は終わったと宣言。以後、このようなかたちで、基準津波、基準地震動などが次々に「おおむね了承」されていきます。たとえば、島崎委員長が全面的に否定した火砕流シミュレーションは、最後までけっきよく変わらなかったのに、そのまま了承されてしまいました。